

# 国語(現代文・古文) 大阪大学 法・外国語・経済・人間科学部 (前期) 1 / 4

## <総括>

出題数 現代文 2題・古文 1題

試験時間 90分

- ・Ⅰは、論理学における「演繹」「帰納」「蓋然的推論」などの思考法と比べながら、通念や常識にとらわれないで対象を探究して新たに発見し知識を拡張して知の創造性を育む「アブダクション」の思考法の意義について論じた評論文からの出題。  
本文は論理学の専門的な内容となっており、受験生にとって読解が易しい出題であったとは言えない。空欄補充の問題が出題された。  
設問の数は前年度の四問より一問増加して五問であった。
- ・Ⅱは、自然と人間との関係について、さまざまな自然観の異同や歴史的な経緯を踏まえつつ論じた評論文から出題された。  
設問の数は、前年度同様四問であった。
- ・大問のⅡで漢字の書き取り問題が五題（前年度は四題）出題されている。
- ・Ⅰ（三六〇字以内、前年度は四〇〇字以内）とⅡ（四四〇字以内、前年度は四一〇字以内）を合わせた記述すべき総字数は、前年度の八一〇字以内と同程度であり、限られた時間の中で納得できる答案を作成するには時間が足りないという、相変わらず受験生には厳しい出題であった。

## <本文分析>

大問番号	Ⅰ	Ⅱ
出典 (作者)	『論理的思考とは何か』(渡邊雅子)	『誰が場所をつくるのか——ポストヒューマニズム的試論』(森正人)
頻出度合 ・的中等	26年度 同志社・立命館大学で同じ箇所が出題された	なし
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・ <b>変化なし</b> ・やや増加・増加)	分量(減少・やや減少・変化なし・ <b>やや増加</b> ・増加)
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・ <b>やや難化</b> ・難化)	難易(易化・やや易化・ <b>変化なし</b> ・やや難化・難化)

## <大問分析>

2 / 4

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
I	評論	問一	記述式	標準	空欄 (2箇所) に入る単語を本文中から抜き出す問題 (「演繹」「帰納」) ※ 空欄が含まれる段落の論理的説明の内容と、第 6～10 段落に記された「演繹」「帰納」についての説 明を踏まえる。両単語についての知識も必要である。 傍線部のように著者が考える理由を説明する問題 (四 〇字以内) ※ 傍線部直後と科学的知識の修正可能性に言及した 第 12 段落の内容を踏まえる。 傍線部の内容を踏まえて、著者の考えを説明する問題 (一六〇字以内) ※ 「演繹」「帰納」「蓋然的推論」と異なる「アブダ クション」の利点が述べられた第 6～9 段落の内容を 中心にまとめる。 傍線部の内容を言い換えた単語を本文中から抜き出 す問題 ※ 科学的探究における「公共の知識」に近い内容の 単語を本文中に見出す。 傍線部の内容について著者が考える理由を説明する 問題 (一六〇字以内) ※ 「演繹・帰納」と「アブダクション (パターンを 読み取る人間の癖)」の思考法の違いを考察する。
		問二	記述式	標準	
		問三	記述式	標準	
		問四	記述式	標準	
		問五	記述式	標準	
II	評論	問一	記述式	標準	漢字の書き取り問題 (五問「荒涼」「侵 (浸) 食 (蝕)」「痕跡」「代謝」「霸 権」) 傍線部の内容を簡潔に説明する問題 (二〇字以内) ※ 第 6 段落の内容を踏まえる。 本文中の事例を用いながら、傍線部の内容を用いて説 明する問題 (一八〇字以内) ※ 傍線部の前後の段落の内容を、「写真」や「自然保 護」「自然利用」といった事例を踏まえつつまとめる。 傍線部についての著者の考えを、本文の内容に即して 説明する問題 (二四〇字以内) ※ 第 13 段落以降に述べられた「第二の自然」と「第 三の自然」それぞれの特性を整理してまとめる。
		問二	記述式	標準	
		問三	記述式	標準	
		問四	記述式	標準	

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

- ・ハイレベルの評論文を中心に、全体の主旨や意味段落の論旨を的確に要約する練習とともに、設問の意図を正確に理解したうえで、答案を書き出す前に的確に解答のポイントを検討・整理した上で答案を作成するという練習を重ねよう。
- ・有力な得点源である漢字問題の対策をしっかりとやっておきたい。

# 国語(現代文・古文)大阪大学 法・外国語・経済・人間科学部 (前期) 3 / 4

## <総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題	試験時間	90分
<p>・法・外国語・経・人間科学部で随筆が出題されたのは過去十年間で二例のみ。なお、もう一題は2025年度の本居宣長『玉勝間』。二年連続だが、ともに国学者による作品という共通点もある。また、年度をさらにさかのぼれば、国学者による今回と同傾向の文章が出題されている。</p> <p>・文章の難易度は標準的。論理的に整然とした内容なので、平安朝の文章などにくらべると、受験者にとっては読解面では平易と感じられただろう。</p> <p>・設問構成はほぼ例年どおり。</p> <p>・説明問題について、字数制限の出題はなかった。これは前年度と同様。過去十年程度を見た傾向としては、字数制限を設ける形式での出題もある。</p> <p>・例年よく出題されている和歌に関する設問が今年度は見られなかった。なお、本学部で和歌の出題を見なかったのは2014・2025年度にもある。</p>			

## <本文分析>

大問番号	Ⅲ
出典 (作者)	『年々随筆』 (石原正明)
頻出度合 ・的中等	出典は稀。的中なし。
分量 前年比較	分量(減少・ <b>やや減少</b> ・変化なし・やや増加・増加) 約1300字 (昨年1500字)
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・ <b>変化なし</b> ・やや難化・難化)

## <大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
Ⅲ	随筆	問一 (a)	記述式	標準	現代語訳。指示語「これ」を具体化する指示あり。着眼点となる重要語句等は「弁ず」「はかなし」。また、助動詞「む」(婉曲・仮定)にも注意。
		問一 (b)	記述式	標準	現代語訳。着眼点となる重要語句等は「聞こゆ」。また、助動詞「まほし」にも注意。
		問一 (c)	記述式	標準	現代語訳。着眼点となる重要語句等は「御ゆ」「聞こしめす」。
		問二	記述式	標準	内容説明。「まぶ穴」という語に着目して第二段落の要点をまとめる。
		問三	記述式	やや難	内容説明。「朝」という語に着目して第三段落の要点を説明する問題だが、設問の要求を正しく捉えないとまとめることが難しい。
		問四	記述式	標準	内容説明。第四～第五段落にわたって述べられた批判を、「薬」と「鬼」という二つの着眼点から説明する(解答欄は二点に分割)。

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

- ・重要古語や語法等の知識に習熟して、正確に現代語訳できる読解力を養うことが重要である。
- ・主語、目的語、指示内容などを考えながら、文章全体の展開や主旨を正確に理解する練習を平素から行うこと。
- ・現代語訳のみならず説明問題においても、文章全体の展開や主旨をふまえた記述力が要求されている。また、例年の傾向として、説明問題に字数制限が課されることも多いので、字数制限のある説明問題の演習も行うべきである。
- ・例年の傾向から、和歌について、和歌修辞や比喩を理解する学習や、説明問題をも意識した解釈の演習が必要である。